

アーキテチャー入門 (4119342)

アーキテチャーはシステムの骨格の静的・動的なモデルです。構想・計画段階で作成し、アプリケーションと基盤の全般の構築・運用の基礎とします。複雑度の増す現在のシステムにおいて、その重要性は増えこそすれ減ることはありません。本セミナーでは企業システムのアーキテチャーを作る方法のエッセンスを学びます。

開催日時	2019年12月20日(金) 10:00-17:00
カテゴリ	IS導入(構築)・IS保守 専門スキル
講師	天羽正道 氏 (フリーランスITアーキテクト) 元 日本アイ・ビー・エム株式会社 エクゼクティブアーキテクト。 チーフアーキテクトとして様々な環境でのビジネスアプリケーションの開発をリード、構想を支援。
参加費	JUAS会員/ITC: 33,000円 一般: 42,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (日本橋堀留町2丁目ビル2階)
対象	◆対象: ・プロジェクトの構想、計画においてシステムの全体像を明確にする仕事に携わる方・上流工程～下流工程にてアーキテクトとしての仕事の一部～全般に携わる方・アーキテチャーに関心のある方 ◆受講前提条件: ・アプリケーションの設計・開発の経験3年程度 ・もしくはインフラの設計・導入の経験3年程度 初級
開催形式	講義、演習
定員	24名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

<主な内容>

- ・アーキテチャーの定義と重要性
- ・アーキテチャー・モデルの作り方
- ・アーキテチャー・モデルを作るワークショップ
- ・クラウド等の最近のアーキテチャーのトピック

<詳細内容>

- 1 アーキテチャーの定義と重要性
アーキテチャーとは何か、アーキテチャーの位置付け、必要性や価値を共有する
 - ・アーキテチャーは静的・動的なシステムの構造のモデル
 - ・優れたシステムを作り、運用し、拡張するための基礎
 - ・要求の分析、実現性の確認、構築単位の識別、インターフェースの認識に必要
 - ・見積もり、ロードマップ、基盤選定条件などに利用
 - ・作成のタイミングは概ねプロジェクトの計画時
 - ・アーキテチャーの構成
 - ・アーキテチャー作成の流れ(一枚物)
 - ・アーキテチャーの種類
- 2 アーキテチャー・モデルを作る際のポイント
 - ・関心分離
 - ・凝集度、結合度
 - ・パレートの法則
 - ・レンジョンの可視化、共有

- ・ファーストカットモデルと洗練のスパイラル

3 アーキテクチャー要求の捉え方

- ・コンテキスト図
- ・ユースケース・モデル
- ・非機能要件（性能、運用、障害回復、エラー処理など）

4 機能モデルの作り方

- ・ユースケース単位にシーケンス図を描きながら機能構造図を洗練する
- ・技術要素を追加し実現の方式を表す

5 非機能モデルの作り方

- ・非機能要件とは
- ・非機能要件を実現するための機能要素を追加する
- ・非機能要件を実現するために機器、ソフト、データの配置を表す

6 アーキテクチャーの検証

要求を満たすか、実現可能か、理由付けが明確か、などの検証について共有

7 アーキテクチャー・モデルを作るワークショップ

簡単なアーキテクチャーモデルを作って理解を深める

8 アーキテクチャーのトピック

最近のキーワードとアーキテクチャーとの関係を共有する

- ・クラウド
- ・API
- ・マイクロサービス